

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年 4月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100235
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム隼人
所在地	鹿児島県霧島市隼人町松永3630-3 (電話) 0995-64-2520
自己評価作成日	平成31年 3月 8日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム隼人は今年の8月で開設17年目を迎えます。これからも新たな気持ちで頑張っていきます。これも全て元気なご利用者様と日々頑張っている職員のおかげだと思っております。毎日入れる温泉(かけながし)や緑豊かな自然に囲まれてご利用者様、日々ゆっくと過ごされております。また、地域密着型として地域の方、ご家族を交えて夏祭りやバーベキュー等も行っており皆様とても喜ばれております。天気が良い日にはドライブにお連れしたり季節の物にあつた活動も行っております。ご利用者様が住み慣れた地域でなるべく生活ができるよう支援も行っています。ご利用者様自身、ご家族の希望もあるので看取りや在宅復帰に力を入れており医療機関との細やかな連携を取り入れご利用者様、ご家族が安心安全に暮らせる環境づくりに努めておりライフサポートワーカー「介護何でも相談所」の事業所で職員4名で対応しており家族、地域住民の相談窓口としても安心して暮らせる事業所として取り組んでおります。お口に合うようにおいしい食事については季節に応じた食材や食事にしたり様々な料理を作り召し上がっていただき活力溢れる生活をして頂けるように心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市中心地より車で10分程の、閑静な温泉地の住宅が立ち並ぶ一角に設置されている。開設17年目を迎える現在、地域密着型サービス事業所としてホームは住民に認知され、地域との協力関係や日常的な交流が図られる関係を構築している。園周辺の散歩や友人知人の来訪、買い物、地域行事への参加、ボランティアの受け入れ等に積極的に取り組み、ホーム主催のイベントや災害訓練には、多くの住民の参加が得られて、利用者の楽しみとなっている。また、地域住民を対象に「まちかど相談所」を設置し、認知症サポーター養成講座も開催して、高齢者福祉や認知症ケアに関する住民からの相談等に適切な助言を行っている。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いの把握に努め、利用者主体の生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望に対しては、職員全体で協議して改善を図るなど、より良いサービスの実践に日々努めており、利用者や家族との信頼関係が構築されている。

管理者は、日頃から気軽に意見が言い合える雰囲気づくりに努め、意見や要望等を把握して運営やサービスの質の向上に取り組んでおり、各種委員会の機能も十分に発揮させて職員全員で工夫しながら改善に努めている。職員のスキルアップを図る研修の実施や日頃のケアに対する助言・指導を積極的に行い、勤務シフトは可能な限り本人の意向を反映させている。また、外部研修の受講には法人による経費の助成制度もあり、有給休暇取得を推奨するなど等、職員の意欲向上につながるよう働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に基づきご利用者様1人1人の尊厳を保持し日々繋がりを大切にしている	利用者の尊厳を大切に、その人らしい生活への支援を理念に掲げ、玄関や事務室等に掲示しており、申し送り時の唱和やミーティングで研修及びケアの振り返りを行って意義の共有と理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加に対しては高齢化に伴いなかなか難しい部分もあるが施設行事の際には地域の方を招待しなるべく全員参加していただいている	地域の情報の把握に努め、運動会の見学や夏祭り等に参加し、ホーム主催の炊き出し訓練には多くの地域住民の参加が得られている。日頃の散歩時の会話や友人・知人の来訪、農・水産物の差し入れ、施設見学の受け入れ、ボランティアによる慰問、初午祭の来園等に積極的に取り組んでいる。ライフサポートワーカーとしての活動や「まちかど相談所」の設置、認知症サポーター養成講座の開催等、住民からの相談に専門性を活かして助言する機会も多く、日常的に円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	まちかど相談所、避難訓練、心肺蘇生法等地域住民の方にも参加していただき協力して情報の共有を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年に6回行っている。資料を添付し意見交換を行いサービスの質の向上を図っている	利用者、家族、民生委員、市介護保険課職員等が参加して定期的開催している。ホームの現況や行事、利用者の状況、ヒヤリハット事例等を報告し、併せて介護保険や認知症ケアに関する意見交換も行っている。委員からは利用者のケアや防災に関する質問や意見が活発に出されており、職員は議事録で共有を図り、全員で協議して業務の改善やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	霧島市主催の催し物に参加しています。ご利用者様に変化があった場合等福祉課などに連絡し対応しています	市担当職員には、日常的に介護保険や各種制度の手続き、利用者のケアや施設運営に関する相談等を行い、助言・指導を受けるなど協力関係を築いている。市やグループホーム連絡協議会主催の会合や研修会に積極的に参加して、行政や他施設職員との意見交換に努め、業務やサービスの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で立ち上げている委員会を中心に、スリーロックを行わない、チェックシートを活用し身体拘束をしないということを認識する	身体拘束については、身体拘束ゼロ委員会を隔月毎に開催し、事例研修や意見交換等を実施して認識を深めており、「身体拘束排除宣言」も行って玄関に掲示している。昼間は施錠は行わず、利用者の見守りや対話、寄り添いに努めて思いを把握し、尊厳を大切にしたい拘束のないケアの実践に取り組んでいる。不適切な言葉づかいやケアに対しては職員間で注意し合うなど、日頃から改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・権利擁護研修などに参加し事業所に持ち帰りその取り組みを行い県に報告する		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をみて全体ミーティングにて情報を共有し、取り組みとしてご利用者様1人1人の尊厳を守りその人らしさの維持、目指す		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族やご利用者様への十分な説明を行い意向を聞き、納得、理解していただき契約している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に気がかりなこと、意見、要望を把握しながら情報交換を行う。家族への情報発信と働きかけを行う。</p>	<p>日頃から見守りや寄り添いに心がけて、利用者の想いや意見を会話や独自のサイン等で理解に努めている。家族からの要望は来訪時や運営推進会議、家族会、意見箱等で把握している。出された意見等は申し送りや業務日誌で共有し、全員で協議して運営やサービスの向上に取り組んでおり、家族にも対応状況を報告して理解を得ている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の全体ミーティングの実施。職員の意見や要望を聞き業務改善に努めている。</p>	<p>管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日々のケアの中やミーティング、職員用意見箱で意見や要望を把握し、必要に応じて個別面談も実施して悩み等も聴取している。出された要望等は協議して改善を図り、勤務シフトには可能な限り職員の意向を反映させている。スキルアップを図るため施設内研修を計画的に実施し、また、外部研修の受講には職員のキャリアや意向を反映させ、有給休暇や育児休業取得など福利厚生にも配慮して、意欲の向上と働きやすい職場環境の整備に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けての支援計画を行う。健康診断や福利厚生への手厚い支援がある</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の勉強会への参加、職能評価シートや自己評価など活用し、意識改革を行う</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修への参加。行政の働きを知る。これからの取り組み等を発信し情報を共有している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供シートや家族から情報を得る。ご利用者様の生活歴や思いを掴みとりその人らしい暮らしの実現に向けた取り組みを行う		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に面会でき面会時の大切な時間を有意義に過ごせるように環境関係作りに仲介支援を行い信頼関係の構築に努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の協力、意向をうかがい情報をもとにミーティング等を行い今すべき事と思われる支援を見極める		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的な優しさを持ち不安な気持ちを学びただの馴れ合いにならず尊敬の気持ちを持ち最期を幸せな人生だったと言ってもらえる、思ってもらえるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にし家族の意向もプランに反映させ交流会を通して共に相談し話し合いの出来る環境づくりに努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を得てドライブに参加していただく、家族が誕生日に集まる等遠方の家族との交流を深めることができるように健康管理と目標設定をする	利用者の生活歴や家庭環境、社会性等を把握して、馴染みに関する情報を共有している。家族や友人の来訪時には話しやすい場や雰囲気づくりに配慮し、本人の希望に沿って買い物や一時帰宅、ドライブ、外食、墓参等を家族と連携して支援している。遠方の家族には毎月、写真やコメントを添えたお便りを送付し電話でも利用者の近況を伝え、また、手紙等の取り次ぎも行なって関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ趣味やできる、できないを考えレクリエーションを計画し、参加していただくことで会話が弾み笑顔も多い。自宅、家族感覚、雰囲気が保てるように考えている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	理由があり他施設に行かれたり入院中に退所された場合その後の様子を電話、手紙等で家族やケアマネと情報交換をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からその方の思いや希望、意向の把握に努めている。ドライブ、散歩等はできる範囲内で行っている。家族の意向も反映しながらその人本位に検討している	日頃から利用者の思いや意向の把握に努め、生きがいのある、その人らしい暮らしの支援を家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者の意向に沿って趣味（活花、電子ピアノの演奏、ぬり絵、折り紙他）や家事（洗濯物たたみ、食後の片付け）への取り組みを、心身の状況に配慮しながら個別の支援にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネ等から情報を得たりしている。家族や知人の面会に際の会話の中から得ることもあるので把握できるように心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、ケース記録、申し送り簿を通しその日その日の現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月のミーティング、担当者会議などで意見を出し合い、介護計画に活かしている。	本人・家族の意向や主治医の意見を基に担当者会議やユニットミーティングを開催し、残存機能に配慮した利用者主体のきめ細かなライフサポートプランを作成している。ケアの実施状況は「業務日誌」「バイタルチェック」等に詳細に記録して共有を図っている。定期的な見直しに加え状況の変動時には計画を修正する等、実状に即した計画を作成して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録をすることで情報共有し介護に継続性が持てるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時の状況に応じて柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一八ひこりの春らしさをめいている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の散髪を地域の美容師さんに切ってもらっています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様にかかっていたかかりつけ医で受けられている。病院受診の際は職員が必ず職員が付き添い家族に報告しています	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しており、協力医療機関による月2回の訪問診療や必要に応じて歯科および皮膚科の訪問診療も活用している。他科受診については家族と連携して同行し、協力医療機関との医療連携の体制も築かれて、利用者及び家族の安心に繋がっている。利用者の病状や受診結果は家族にも報告するなど密に連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	情報や気づきを看護師に伝え適切な受信や看護が受けられている		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時は毎日洗濯物を取りに行き入居者様を見舞うようにしている		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	本人や家族の意向を尊重し、出来る限り希望に沿った終末期が迎えられるよう努めている	重度化や終末期のケアに対する指針を整備しており、利用開始時に本人や家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族の「事前意思確認書」に基づいて、可能な限り希望に沿った支援体制を構築しており、今年度も7件の看取りを実施している。心肺蘇生やAEDの使用法、終末期や急変時対応の研修を実施し職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変時の為に全員心肺蘇生、AEDの使用法を研修にて学んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回避難訓練を実施している。その中に災害訓練を入れている。台風や雪のひどい時など遠い職員は勤務調整を入れたり泊まってもらう等している</p>	<p>災害時の対応マニュアルを整備し、年2回夜間を含む通報、避難、消火の訓練と消防署職員による研修を実施しており、炊き出し訓練には地域住民や家族の協力も得られている。災害のニュースをもとに意見交換を行い、独自の避難マップの作成や連絡網、避難経路を毎月確認する等、防災への認識を共有している。スプリンクラーや火災通報装置、避難用滑り台を設置し、懐中電灯、ラジオ等の整備や飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話の中で本人の希望や行動を職員みんなで共有できるように心がけている	利用者の尊厳やプライバシー確保については、マニュアルを整備し、申し送りや勉強会で振り返りや意見交換を行って適切なケアの実践に取り組んでいる。更衣や排泄、入浴時のケアに際しては人格や羞恥心に特に配慮しており、居室やトイレ、浴室等はプライバシー保護に配慮した構造になっている。情報誌への掲載など個人情報の取扱いについては承諾を得ており、ケアに関する帳票類も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の希望や行動を職員皆で共有できる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務にならないように利用者様中心の介護、支援を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ドライブ、行事参加や外出時はおしゃれをしたり、口紅をつけたりなどおしゃれの支援をしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットでお好み焼き、餃子、たこ焼きパーティー、ホットプレートでケーキを作るなど行っている。準備、かたづけも普段から出来る方にはしてもらっている	疾病に伴う食事制限や形態、栄養バランス、嗜好等に配慮し、差し入れの野菜等も活用しながら調理しており、利用者は談笑しながら食事している。季節の行事食や手作りのおやつ、季節感のある和菓子、家族との会食、外食など、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。食事や水分の摂取状況を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった食事量、形態等を工夫している。一日の水分量1200～1500ccを目安に目標にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じた口腔支援をしている。口が開けない方や困難な方には口腔ティッシュ、口腔ジェルを使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意の有無にかかわらず時間誘導しなるべくトイレでの排泄を心がけている。日中は布パンツを使用しオムツ外しを実行している。また、なるべくオムツ使用を減らし家族の経済負担を軽くしている。度々の陰部洗浄、陰洗、清拭で清潔を保つように心がけている	各利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、便秘予防に牛乳や植物繊維の多い食材、補助食品の摂取など工夫している。トイレ誘導や衣服交換時のケアや言葉づかいは、利用者の羞恥心やプライバシーに特に配慮して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時冷たい牛乳をのんでもらったり食物繊維があるものを摂っていただいています。体操、運動をしてもらい主治医に相談したりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	かけ流し温泉を楽しんでいただいています。体調不良時や入浴拒否時は時間をずらしたり翌日にずらすなど配慮している。夏場はシャワー浴を希望される方もいる	風呂はかけ流し温泉となっており、週3回の入浴を利用者の心身の状態に配慮しながら支援している。機械浴や足浴、清拭の対応や好みの温度、時間などを柔軟に、ゆっくりと気持ち良く楽しめるように配慮し、入浴後は水分の補給や皮膚疾患の処置を支援している。入浴を渋る利用者には無理強いしないで時間や順番、声掛け等を工夫して、意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方にあった休憩、休息をとっていただいています。安眠できるようにいろいろと工夫しております		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように確認を3回と決めている。確実に服用出来るように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じた役割を職員と一緒にに行っている。午前、午後のレクリエーション、散歩、誕生日会などの行事を楽しみにされ気分転換となっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日には散歩と一緒にでられている。遠出は高齢なので積極的には取り入れていない。近くの公園でお花見、コスモス畑等にお連れする..	利用者の外出に対する意向を日頃の支援の中で把握し、健康状態や天候に配慮しながら、園周辺の散歩やドライブ、買い物、一時帰宅、墓参り等の外出を家族と協力して取り組んでいる。重度化により全員での外出は難しい状況になっているが、初詣や季節の花見、運動会の見学など、ホーム全体での外出も可能な限り実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の支払いは家族に任せている。欲しいものがあった場合は預り金から職員が欲しいものを購入してくる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様の希望時やお礼の電話をしていただく。字が書ける方には一緒に年賀はがき等を書いていただく</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングや室内に利用者様の作品を飾ったりさせて頂き喜ばれている。お部屋も常に掃除を行い清潔を保つ</p>	<p>ホームはバリアフリーの構造で、廊下やリビング等は余裕のあるスペースが確保されている。随所に利用者の作品や絵画等が飾られ、清掃や空調、異臭にも十分配慮して、和やかで清潔感のある空間となっている。リビングの一角には畳部屋もあり、テーブルセットやテレビ等の家具が利用者の動線や利便性に配慮して備えられ、また、園庭には東屋やベンチも設置されており、利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや好きな時にお部屋に行かれマイペースに過ごされる。おしゃべりをされたり談話あり。常に居場所作りはできている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使っていた私物の持ち込み。主にタンスやイスの持ち込み。担当が居室のしつらえの維持、工夫している</p>	<p>居室はフローリングに腰高窓の仕様で、電動ベッド、エアコン、タンスが備えてあり、利用者の意向を確認しながら整理整頓の支援に努めている。利用者は家庭同様に落ち着いて過ごせるように、家族写真や寝具、テレビ、仏壇、電子ピアノ、時計等を自由に持ち込み、自身の作品や高齢者表彰の額等も飾って、その人らしい和やかな雰囲気の居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行される方や車いすの方々が安全に移動できるように見守り、移動に気をつけている。干渉しすぎないように距離をたもつ。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない